



1 釘の規格をチェックする従業員 2 ホッチキスに使われる部品 3 不良品を選別する機械 4 信頼を得るためには品質が最も重要と語る岩本義之代表取締役 5 工場を案内する岩本克巳相談役 6 釘を製造する金型 7 多種多様な釘の見本

かわちながの ものづくり探訪

Made in Kawachinagano

作

28

創

高品質の特殊釘で これからも信頼を築く 株式会社 金剛特殊釘製作所

■輸出主導で大きく発展
株式会社金剛特殊釘製作所は昭和15年に岩本製鋸所として岩本菊太郎氏が創業、昭和35年に原町から向野町に移転し、現在の社名に。「移転当時は国の産業政策に従って、絨毯や靴用の釘の輸出に力を入れていました」と岩本義之代表取締役は振り返ります。中でも絨毯用の釘は菊太郎氏が製品の検査方法を独自に開発、不良品がほとんど出ないという信頼性の高さが評判となり、昭和40年代から50年代にかけて、米国で消費さ

れる絨毯用釘のおよそ6割を同社が供給することに。安価な中国製の製品が出回る現在でも米国や欧州、豪州などから安定した発注があるのだとか。また、靴用釘は使われる部分によって、材質や形状などが異なる数百種類を製造し、最盛期には月間25トンを輸出。現在でも米国でのシェアは7割を占めるという。

■多種多様な特殊釘を製造
同社は他にも特殊な釘に果敢に挑み、12ミリの鉄板も貫通できる釘(右下写真①)や、目の不自由な子どもたちが遊ぶ積み木の点字用②、瓦用③、かき水器用④、仏壇用⑤の釘のほか、湯沸し器の部品⑥やシートベルトの部品⑦など、幅広い用途の製品を製造しています。

■品質重視で国内販売を拡大
平成7年の阪神淡路大震災まで数量ベースで9割以上を輸出に頼っていた同社は震災以降、超円高の逆風に見舞われます。輸出価格の高騰で輸出量が激減すると国内販売に力を入れる

ことに。価格よりも品質重視の方針をそれまで以上に貫き、コスト増でも自社で超硬合金の金型を製作して品質を安定させたり、製造途中の検査精度を高めるなど様々な努力が実を結び、今では国内向けが生産量の6〜7割を占めるまでに拡大。「量より質を追求するのはもちろん、時代に柔軟に対応すること、妥協しないこと、他社ができないものを作ること、会社の発展に活路を見出したい」と岩本社長。同社はこれからも特殊釘の分野で信頼を築きます。



▲同社が製造している様々な形状をした特殊な釘やピン状の製品

株式会社 金剛特殊釘製作所
会社がある向野町から金剛山が望めることから、登山愛好家であった創業者の岩本菊太郎氏が会社名に「金剛」の文字を入れたという。
向野町 145 ☎53-1451
<http://www.kongo-nail.co.jp>